

実感と期待

はまなす幼児センター父母会 会長 横川 翔平

我が家は夫婦共働きのため、長男は生後十カ月から保育所に、次男は一歳から幼児センターに通っており、長男は保育所生活六年目、次男は三年目となります。

朝から夕方までと一日の大半を幼児センターで過ごしているため、親が教える以上に様々なことを身に付けてきます。私は仕事で帰りが遅く、子育てなど妻に頼りきりのため、たまに早く帰れた日や休みの日には、できる限り習い事に同行して一緒に練習したり、共通の趣味で楽しみを共有しながら、息子たちと関われる時間を持つるようにしています。一緒に練習したり遊ぶことで、子どもの成長を実感できて非常に嬉しく思います。

私生活では、長男が去年からサッカーを、今年からは空手も習い始めました。集団生活の中で、失敗することや、注目されること、協調しながら行動することが苦手な長男。サッカーでは練習試合を最後まで集中してプレイすること、空手では「押忍！」と大きな声で返事することが今の目標で



す。一方、一人で行う練習は得意で、サッカーのシュート練習や、空手の「型」の練習、遊びを交えた基礎トレーニングは楽しみながらやっています。今後も、親の一番の狙いである

礼儀や協調性を養って、お兄さん、お姉さん方と一緒に練習していくなかで、目標を達成する喜びや自信をつけて、のびのびと成長して欲しいと思います。

次男は、長男の後を付いて回るのが日課です。兄の行動を真似したり、時には一緒にサッカーや空手の練習をすることで自分の言葉や行動の幅を広げており、良い刺激になっているようです。次男は、活発な性格をしており、長男に比べて動きがパワフルです。たまに勢い余って怪我也しますが、その勢いを更なる身体能力の向上につなげて欲しいと思います。また、

「やりがい」を求めて

北辰小学校 教諭 菅原 健悟

今年から初めての教員生活がスタートしました。私の実家は江別市にあり、大学四年まで実家暮らしだったため、初めての社会人&初めての一人暮らしという不安のダブルパンチからスタートしました。

実際に四月から教育現場に立ち、新型コロナウイルスで休校が決まるまでの二週間の間、新卒一年目の私には、不安を吹き飛ばすほどに毎日が濃く感じられました。教員という職の仕事の幅広さや、一日一日にたくさんの刺激があり、自分自身への学びや成長を直に体感できるこの環境に充実感さえ感じられます。

様々な環境の中で心身共に成長することを期待しています。

今年度、長男は年長児で次男は年少児ですが、二人揃っての幼児センター生活は最後の年です。新型コロナウイルスの影響で楽しみにしていた行事等が中止、延期となっていく子どもたちを目の当たりにして、今年の思い出が寂しくなってしまうことを心配しています。これまでと違った形となっても、少しでも多くの思い出を作れるように、子ども達や先生方、保護者や役員の方々、関係する皆様方と協力させていたいただきながら運営を考えていかなければと思います。

そして、それらはきつとこの仕事の「やりがい」に値するのだろうと、周りの先生を見て感じますし、私もそう思います。

私が小学生の時にこんな先生がいきました。その先生は、若い男性の方で、子供を楽しませる発想力が大変優れていたと今感じます。授業を頑張って早く終わらせて時間を少しづつ確保し、クラス全員でお菓子の家を作ったり、バケツプリンを作ったりする活動は忘れられません。しかし、ただ遊んでいるわけではなかったんだと、同じ教員の立場だからこそ感じることもたくさんあります。今でも、この人

生は私の中であこがれであり、教員の道に進もうと思ったきっかけでもあります。



私の持論ですが、教員はキャリアが重視される職業だと思っておりますが、若くてもこの先生のように、子どもを楽しませる発想は少なからずできると思います。もちろん、それを行って大丈夫なのかをキャリアがある先生に確認する必要がありますが、自分にしかない発想力で子どもを伸ばしていくことも「やりがい」に直結するのかなと思います。

話は変わりますが、最初にもお話し

たように私は江別市出身ということ、共和町のように大きくて綺麗な山が間近にあったり、車で数分の距離に海が見えたりするような環境ではありませんでした。ですから、このような情操が養われるような感覚を久しぶりに体感し、同時に、この先教育に関わっていく中でこのような感性も大切にしていきたいと考えています。

子どもの個性を見る

西陵小学校 教諭 大西 悠文

そして、私にとって新しい土地ということ、まだまだ知らないことがたくさんあります。この先、子どもたちや保護者の皆様、地域の方々に助けていただきながら教育への還元や地域への貢献に繋がっていきたくと考えています。今後とも、日々精進できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

今年の四月に、小樽市立花園小学校から赴任しました。西陵小学校に初めて来た時に、学校の敷地内の環境の美しさ、グラウンドの広さにとっても驚きました。先生方は、「分からないことがありますか。」と聞いてくれる心温かい方々で、とても安心して職務に専念することができて感謝しております。

始業式、放送室で着任の挨拶をする時、近くの教室から「おはようございます。」と元気な声が聞こえてきました。これから、新担任として受け持つ学級が近くにありましたので、さらに担任として頑張る気持ちが強くなりました。

教室に入ったとたん、「おはようございます。」と元気に挨拶をしてくれ、「さっきの声は、この学級だったんだ。元気な学級だ。」と感心しました。顔を上げて話をしっかり聞いてくれ

たり、面白い話にもしっかりと笑顔や笑い声で反応してくれて、素直な子どもたちに出会えて安心しました。

今は、一人一人の個性溢れるエネルギーを毎日もらい、充実した毎日を送ることができています。ありがとうございます。

子どもたちには、「話すこと、聞くこと、考えること」や、「失敗してもチャレンジすること」を大切にしてもらっています。自分で考えるだけでなく、先生や子ども同士で話し合い、学びを深めてもらいたいからです。

ある子が、「先生、〇〇さんは、今まで全然話さなかったけれど、すごい話すようになった。」と言ってくれました。「きつと、聞く人が優しく、良い反応をしてくれてたんだね。」と話しました。子どもが担任の願いを素直に受け取り、子ども同士で支え合う学

級で、とても嬉しく思っております。西陵小学校での生活はまだまだ経験不足で至らないことが多いですが、子どものためにできる限り支援をしていきたいと思えます。学級の人数は十五人ですが、一人一人の輝きを大切に、個性溢れる学級にしていきたいです。

微力ですが、地域の皆様のお力を借りながら、子どもたちが安心・安全な生活ができるように努めて参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

